

令和7年 第9回 定例

摂津市教育委員会会議録

開催日時 令和7年9月17日（水） 午後1時30分開会
午後2時30分閉会

開催場所 摂津市役所 本館3階 301会議室

付議事件

議案番号	件 名	審議結果
3 1	令和7年度一般会計補正予算第3号及び財産の処分の原案承認の件	承認

報告事項

番号	件名
1	事業実施に伴う後援名義の使用承認について
2	令和7年度全国学力・学習状況調査の結果の公表について
3	令和7年度8月までの問題行動等報告について
4	令和7年度8月までの問題行動等具体的事案及び追跡報告について
5	各課事業日程報告について

教 育 長	若狭孝太郎	教 育 総 務 部 長	安 田 信 吾	こども家庭部長	森 川 護
教育長職務代理者	福 元 実	教育総務部副理事	大 崎 貴 子	こども家庭部副理事	松 田 紀 子
委 員	大 矢 優 子	教 育 政 策 課 長	小 西 仁	兼出産育児課長	
委 員	藤 村 裕 爾	学 校 教 育 課 長	田 中 大 介	こども家庭部副理事	飯 野 祐 介
委 員	榑 奈津子	学校教育課参事 (教職員人事担当)	羽 田 行 伸	兼こども政策課長	
		教 育 支 援 課 長	武 田 進 介	こども家庭相談課長	佐 野 嘉 宏
		生 涯 学 習 課 長	千 葉 郁 子	保育教育課長	湯 原 正 治
		学 校 教 育 課 長 代 理	樋 口 三 花	保育教育課参事	中 川 資 子
		教育支援課長代理	久米真由美		
		教育政策課長代理	井 上 智 之		
		教育政策課係員	末 永 侑 希		

教育長	ただいまから、令和 7 年第 9 回教育委員会定例会を開催いたします。 本日の署名委員は大矢委員です。よろしくお願いいたします。 本日は、付議事件が 1 件、報告事項が 5 件ございます。 まず、本日の議事進行について各委員にお諮りします。 議案第 31 号につきましては、会議を公開することで公正な審議ができない恐れがあるため、それから、報告事項の（４）につきましては、会議を公開することで個人が特定される恐れがございますので、関係法令の規定によりまして、秘密会として行いたく存じます。 従いまして、まず報告事項（１）から報告事項（５）まで進み、暫時休憩を取ります。その後、秘密会を宣言し、報告事項（４）、議案第 31 号に進みますが、皆様ご異議ございませんでしょうか。
全委員	異議なし。
教育長	異議なしとのことですので、本日の議事につきましては、ご説明したとおり進行いたします。 まず、報告事項（１）「事業実施に伴う後援名義の使用承認について」、教育政策課より説明をお願いします。
教育政策課長	〔事業実施に伴う後援名義の使用承認について説明〕
教育長	説明が終わりましたが、何かご意見・ご質問はございますか。
大矢委員	新規事業の 1 件目、「子どもの声を聴けるおとな」養成講座ですが、「チャイルドラインすいた」のとても良い講座だと思います。対象が「おとな」となっているのですが、広く募集されるのか、それとも何か資格のある方を募集されているのか。誰でも応募できるものなのか教えてください。
学校教育課長	全 10 回の講座で募集人数は約 20 名程度ということで、「子どもの電話を受けたいと思う 18 歳以上の人」という括りですので、

何か資格がいるということではございません。

教育長

他にご意見・ご質問はございませんでしょうか。

それでは、ご意見・ご質問等が無いようですので、次に進みます。

続きまして、報告事項（２）「令和７年度全国学力・学習状況調査の結果の公表について」、学校教育課より説明をお願いします。

学校教育課長

[令和７年度全国学力・学習状況調査の結果の公表について説明]

教育長

説明が終わりましたが、何かご意見・ご質問はございますか。

大矢委員

小学校の成績が少し下がってしまったのは非常に残念ですが、令和３年から令和６年まで上手くいってきたのに、今回下がってしまい、「前に戻りつつある」というのは、何か原因があるのでしょうか。それとも、今回だけたまたま上手くいかなかっただけなのか。難しいところですが、何か原因に思い当たるところはありますでしょうか。

学校教育課長

「明確にこれだ」という原因は申し上げられないのですが、色々分析した見解としては、まずは「基礎基本」の部分です。例えば、昨年度は漢字の正答率が非常に低かったなどの課題があったため、今回「落ちた原因は基礎基本にあるのではないか」という視点でまず分析しました。しかし、「知識・技能」や、「思考・判断・表現」とを比べると、昨年課題だった漢字や簡単な計算問題などは、全国と比べてさほど低くはない状況でした。強いて言うなら、中学校の理科において、一番正答率が低く全国との差が開いている問題は「塩素の元素記号」を答える問題でした。ただ答えるだけなのですが、それが全国と比べて低かった。理科については、中学校でも「基礎基本」に課題があるのかと思います。その他の部分については、「思考・判断・表現」という部分に課題が見られます。こうした状況の中で、やはり「授業」がポイントかなと思います。１学期にも各校の学力向上のヒアリングをした時、「基礎基本」の取組については、どうしても授業の話というよりも「放課後の学習」、「家庭学習の工夫」、また「朝の学習」で計算をさせているというような話

が多くありました。もう一度、授業の中できちんと目に見える力をつける。「主体性」や「夢や目標を持っている」という部分は、本市のこどもたちは全国と比べても良い状況ですので、あとは「授業でしっかり力をつけられているか」というのが、今後注力すべきところではないかと考えています。

大矢委員

こちら側としては、授業をもう少し充実しないといけないと思いますが、家庭学習にも「基礎基本」に関しては大きく関係があるということですね。

榊委員

先ほどの理科のことですが、元素記号などは、正直私もこどもの時は得意ではありませんでした。理科の先生は理科が「好き」なので、すごく楽しそうにこどもたちに伝えてくれていると思います。ただ、分からない・興味のないこどもからしたら、何を言っているのか分からないという状態が、私にはありました。それを「教えよう」とするのではなくて、例えば今では元素記号を使ったカルタなどが市販されていますので、そういったものを授業で取り入れるなどしてはどうかと思います。教科書で「教える」のではなく、こどもが自ら「この記号を覚えたほうが、このゲームで勝てるから得だな」と思えるような工夫を授業でするのは難しいものなのではないでしょうか。

教育支援課長

カルタのような取組などは実際にいくつかの中学校の現場で行っています。原子・分子記号や、エンドウ豆の遺伝のカードなどの工夫もいろいろ取り組まれております。ただ、どうしても小学校においては、国語や算数の研究授業は進んでいます。理科を専門的に学んできた方が小学校には少なく、「ものにどれだけ何が溶けるか」というのを比べる実験などで、大さじ一杯ずつで計ってしまうなど、理科の視点から言えば本来は質量で比べるのが正しいのですが、そのような「ちょっとしたこと」の積み重ねが、もしかしたらこの結果の部分に出ているのかもしれないと思っています。他教科に渡った研究授業や、市教育委員会として初任者研修なども行っておりますので、そのような視点でアドバイスできるように心がけているところです。

学校教育課参事

小学校で教頭をしておりましたので、その時に理科の授業づくりに教員と取り組んだことがあります。小学校の教員は理科の専門性を持って、理科の授業をしているのではなく、自分たちが教師になってから教材研究をしますので、理科の本質に踏み込んで、研究をしているということではなく、目の前の教材をおもしろく教えるという視点で考えることがあります。このことから、小学校では理科が好きだという子が比較的多いというのが現状です。それは目の前で実験をしたり、観察をしたり、実物に触れ合う。小学校段階で取り扱う理科というのは、特に目にしやすいものを取り扱うことが多いので、こどもたちも比較的興味をもってやれるということがございます。中学校段階になると、目に見えない科学の分野というものを取り扱うことになります。そうすると、こどもたちは現実味が無い分野の学習となりますので、なかなか実感が持ちにくい。中学校側も工夫をしていかないといけない部分ではありますが、いかに現実の生活で、科学と触れ合って、理科の授業を進めていくという研究をしていかないといけないのかなと思います。

加えて言いますと、小学校段階と中学校段階の接続部分も非常に大事だと思っています。

藤村委員

無回答率はどのように推移していますでしょうか。

学校教育課長

全国比であるが、小学校は上昇している。全国比で言いますと、昨年は国語が0.8、算数が0.92でしたが、今年度、国語は1.3、算数が1.46です。中学校は昨年度と同様の状況です。

藤村委員

この数字は少ない方がいいわけですね。以前は無回答率というのがキーとなっていました、これは改善されていると思われますか。

学校教育課長

10年ほど前の学力が課題となった時期に比べれば改善はしています。ただ、無回答率の「学校間差」が非常にあると思います。高い学校ですと、3.49%や2.85%という状況が見られます。

藤村委員	各学校の分析についてはこれからでしょうか。
学校教育課長	夏休み中に各学校に結果が返ってきておりますので、順次、分析して取りまとめているという状況です。
藤村委員	また結果がわかれば共有していただければと思います。 続けてですが、家庭学習についてもずっと気になっているのですが、中学3年生で「全くしない」とか「30分以下」というのは信じられないのですが、宿題をするだけでも30分以上はかかると思います。ある中学校では「宿題が偏らないように」職員室に先生たちの掲示板があって「何曜日、どの教科が宿題を出しているか」を確認し、バランスを取るような工夫をしていました。家庭学習に結びつくような宿題や課題を、小学校、中学校ともに積極的に出しているのでしょうか。徹底させることができているのでしょうか。何か家庭学習の定着に向けて取り組まれているのでしょうか。
学校教育課長	基本的に宿題は「やらせきる」という方針です。一部の小学校では「放課後学習」という形で担任を中心に基礎基本の定着へ向けて取り組んでいます。「家庭学習ウィーク」として、中学校の定期テスト前に合わせた小学校の学習計画を立てるという流れは出来てきております。
藤村委員	昔は宿題と言えば、漢字ドリルと計算ドリルがあって、嫌というほど毎日同じことをさせられていた。家庭学習の習慣を身につけること、学んだことを定着させるという2つの意味で宿題というのは非常に重要だと思います。「毎日、学年×10分」など、昔は基準がありました。もう少し工夫が欲しい。「30人中5、6人は宿題が出てこない」というのは課題です。小中とも、何とか意欲的に取り組めるような宿題・工夫ができるのではないかと思います。 それと小学校の全国平均との推移ですが、今年の平均値は確かに下がりましたが、ここ3年～4年の右肩上がりの推移からすれば一教科、1、2問の違いですから。それほど大きく状況が悪化した、あるいは学力が急落しているとまで見る必要はないのかな、と個人的には思っています。

教育長

家庭学習の部分ですが、これだけ諸策を打っているようですが、数値にはなかなか結びついてこない状況です。特に全国と比較して10ポイントも違っている。大阪府の中でも高い数字だと思えます。この辺りは他市などで成功している事例等、ぜひ調べて教えて欲しいと思います。どうしても調査は「4月実施」ですから、今の調査の結果は、前年度の5年生までの家庭学習の数字だなと感じるところもあります。最上級生、6年生になったこの後の期間でどう増えているかを本当は期待したいのですが、他市の情報を得た上で、家庭学習を促していければと思います。委員からもありましたとおり、この結果を受けて授業の方で「もう一工夫」、学習方法・読み解きについても工夫が必要だと思います。よろしくお願いします。

大矢委員

論理的な思考力・判断力・表現力が弱いと前から言われているのですが、そのために何をしたらいいのかなと思っています。

授業で力がつくようにしないといけないし、一方では、こどものたちの中で、「読む力が弱い」、「隙間を読み取れない」こどもたちがいるというので、そのようなこどもたちに同じように授業しても入っていかない。何かそこに工夫がいるのではないかと思います。よろしくお願いいたします。

教育長

他にご意見・ご質問はございませんでしょうか。

それでは、ご意見・ご質問等が無いようですので、次に進みます。

続きまして、報告事項（3）「令和7年度8月までの問題行動等報告について」、学校教育課より説明をお願いします。

学校教育課長

[令和7年度8月までの問題行動等報告について説明]

教育長

説明が終わりました。ご質問ございましたら、お願いします。

特にございませんか。それでは、ご意見・ご質問等が無いようですので、次に進みます。報告事項（5）「各課事業日程報告について」、教育政策課より説明をお願いします。

教育政策課長

[各課事業日程報告について説明]

教育長

説明が終わりました。ご質問ございましたら、お願いします。
特にございませんか。それでは、秘密会以外の審議はすべて終了いたしました。
会議の始めに、お諮りしましたとおり、ここで暫時休憩をとり、秘密会として再開いたします。ご苦勞様でした。
それでは、暫時休憩します。

【暫時休憩】

教育長

それでは秘密会として再開いたします。報告事項（４）の報告を受けます。「令和７年度８月までの問題行動等具体的事案及び追跡報告について」、学校教育課から説明をお願いします。

【以下、秘密会のため削除】

教育長

これにて秘密会を解きます。
本日の案件は全て終了いたしました。
これをもちまして、本日の定例教育委員会議を終了いたします。
ご苦勞様でした。